

ローマ人への手紙 第8章28節 (神に焦点を)

冒頭神を愛する人々、で始まるこの節で明らかになるのは不動の望みです。神を愛する人々は、どのような人々でしょうか。神に愛された人々です。神の愛を注がれている人々です。かつてこころ渴き、生きる重荷、次の一步の望みが絶たれた人々が、この一切から解放して下さった神の愛を体験し、知り、神を愛する人々です。

神に愛され、こころ潤され、絶えることのない感謝に満たされる。生きる重荷が変わり、愛の深さを知る喜びで溢れる。自分に絶望する者が、どん底から見える神の望みに捕らえられる。私たちが愛したのではなく、初めに神が私たちを愛している、この愛を生きる人々がいる。

神が愛を注ぐ人々は、神を愛する者となり、神の御計画にしたがい召される者となる。高圧的召しでなく、愛で召された者たちが、その愛で神と交わる。愛で結ばれ、神のみ旨に生きる、真に豊かな永久の関係を与えられる。

彼らのこころは一点にむけられる。主なる神にむけられる。一つのことに全存在をかけてむかうとき、彼らに起こる喜びも悲しみも、すべてが相働いて益となる。愛されたこころと歩みの焦点を唯一の神に置く者は知る。